

実施日2008年10月25日

第5回 環境フォーラム in キュポ・ラ 報告書

「私たちのエコライフ」発表会 2008



発行：NPO法人川口市民環境会議



主催：NPO法人川口市民環境会議
後援：川口市、川口市教育委員会
協力：川口マイスター児童合唱団、木風堂、劇団ちよっぶ、東京ガス(株)、内海治子、山下弘徳(割りばしおじさん)、真船 貢(撮影) (50音順、敬称略)
協賛企業：(有)アース電創、(有)浅倉自動車運輸、姉崎興業(株)、(株)アライ、有田屋食品、(株)イーアールシー、イオン(株)ジャスコ川口店、イオン(株)ジャスコ川口前川店、池田鉄工(株)、(株)白山興業、海老澤調査測量(株)、大富精機(株)、(株)奥富電気工事、オリジン自動車、川口珠算協会、亀田印刷(株)、きたきフラワーハウス、木風堂、(有)木村商事、コーエー・エコビジネス(株)、(株)国商、虎穴庵、(株)五味鋳造所、埼玉建興(株)、齋藤記念病院、(株)サンビック、(株)サンユー、伸明建設(株)、住美塗創工業(有)、双栄自動車整備(有)、(株)タナカ商店、(有)司内装、(株)テーエムダブル、(株)テラテック、(株)デイジイ、東京ガス(株)、徳竹塗装(株)、中原建設(株)、(株)日環サービス、橋本燃焼器(株)、(株)八廣園、(有)花ぜんセレモニー、(株)秀信、(株)富士土木興業、(有)ますいいリビングカンパニー、(株)ママダ衣料、(株)モリチュウ、矢島鋳工(株)、DOLCE (50音順、敬称略)
ホームページ <http://www.ne.jp/asahi/eco/ecolife> ブログ <http://blog.canpan.info/ecolife>
この事業は、(財)サイサン環境保全基金助成事業の支援を受けて実施しました。

プログラム

- 10:00 **開 会**（会議室1.2.3）
 あいさつ NPO法人川口市民環境会議代表 浅羽理恵
 あいさつ 川口市長 岡村幸四郎
- 10:10 **「エコライフDAY2008」報告** 貴田順子
エコライフDAY参加率上位校表彰
 小学校：1.上青木南小学校 2.戸塚南小学校 3.根岸小学校
 中学校：1.元郷中学校 2.青木中学校 3.仲町中学校
- 10:20 **第1部 「私のエコライフ」**（敬称略）
1. 朝日西小学校 5・6年生 「朝日西小の環境への取組」
 2. 上青木南小学校 5・6年生 「学校でのエコ活動」
 3. 芝中学校 1年生 「私たちに出来ること食品トレーの回収」
 4. 本町小学校 5年生 「身近なエコ活動」
 5. 戸塚南小学校 4年生 「グリーンカーテン大作戦」
 6. 仲町中学校 3年生 「身近にできる環境保全」
 7. 朝日東小学校 6年生 「エコへの取組」
 8. 木曾呂小学校 4・5・6年生+PTA 「グリーンカーテンができたよ！」
 9. 川口総合高校 2年生 「指定モデル校としてのエコライフの取り組み」
 10. 参加者へのメッセージ （代読） 大東文化大学附属第一高等学校 平林豊
 県立浦和第一女子高等学校 小樋山清蓮
 11. インターンに参加して 埼玉大学 石川紘平
- 川口マイスター児童合唱団による合唱
- 12:00 **昼 食**（会議室1.2.3）
- 12:30～12:55 ***アトラクション「環境戦隊*エコレンジャー」**劇団ちよつぷ
- 13:00 **第2部 「エコ体験広場&ものづくりコーナー」**
- 15:00 **閉 会** 環境フォーラム担当 森 雄児

「エコ体験広場&ものづくりコーナー」

- | | |
|------------------------------------|----------------------|
| 1.省エネ回転寿司 | 東京ガス(株) |
| 2.捨てられる割りばしから「おもちゃ」を作ろう | 割りばしおじさん
山下弘徳さん |
| 3.木を知る、木を使う ～体験しよう、のこぎりで木を切り、釘を打つ～ | 木風堂 |
| 4.紙すきコーナー | 内海治子さん |
| 5.地球君マスコット人形とマイはしケース作り | 川口市民環境会議 |
| 6.グリーンカーテンと紙芝居「ようこそ森へ」 | 川口市環境総務課
川口市民環境会議 |

あいさつ

NPO法人川口市民環境会議代表 浅羽理恵

本日は、第5回環境フォーラムにお越しいただきありがとうございました。

年々深刻化する温暖化ですが、これを防ぐためには、まずはエコライフDAYのように身近なところから実践していくことが大切だと思っています。そして同時に、二酸化炭素を確実に減らすための仕組み、ルール(=法律)を作ることも大切です。そのため、夏からスタートしている「Make The Ruleキャンペーン」に参加し、法律づくりを呼びかけているところです。今年も、皆さんの取り組みをととても楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。



あいさつ

川口市長 岡村幸四郎



日頃より、本市の環境への取組に対し、ご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

今年の夏はニュースなどで、『ゲリラ豪雨』という新たな言葉を耳にした人もいるのではないのでしょうか。この集中豪雨により道路が冠水したり河川が決壊したりしています。これは、地球温暖化が起因していると考えられ、私たちの生活にも深刻な影響を及ぼし始めているのです。

地球温暖化を防止していくためには、役所や国がやるからよいというのではなく、我々一人一人ができることをやっていくことによって環境に対する取り組みの一助になっていきます。自分ができるところをやっていこう、みんなが影響しあってできることをやっていこうということ。その一つの取り組みがエコライフDAYであると思っています。

川口市では温暖化の取り組みとして地域推進計画をたてて実施していますが、地球温暖化防止の取組で効果をあげるためには、市民や事業者の皆さんと市役所の三者が協働し、実施していくことが必要不可欠です。皆さま方のご協力を得て実施している「エコライフDAYの取組」も今回で9回目をむかえ、年々参加者数も増えてきていることは大変喜ばしいことです。

この他にも、川口市では11月10日から19店舗が参加してレジ袋の無料配布を中止します。全国で使われているレジ袋の量は年間約300億枚で、本市のレジ袋使用枚数は約1億5千万枚にのぼります。このレジ袋は製造、加工、焼却のそれぞれの過程で二酸化炭素を発生し、地球温暖化を進めることにつながります。この取り組みを実践することで、地球温暖化の防止に役立ちますので、今後エコライフDAYのように広がってほしいなと思います。

地球温暖化防止の取組を推進していく上の有名な標語で「Think globally act locally」という言葉がありますが、これは「地球規模で考え、足元から行動せよ」という意味のものです。私たちもこの言葉のとおり、地球温暖化防止に向けた取組を、身近なことから、協働して進めていきましょう。

エコライフDAY2008報告

エコライフDAY担当 貴田順子

第9回目の「エコライフDAY」は6月8日(日)に実施し、参加者総数69,579人で、川口市の人口50万人の約14%になりました。年々参加者が増えていますが、環境に対する皆さんの意識が高まっていることとエコライフDAYが徐々にひろまってきたからだと思います。

この日に減らせた二酸化炭素の量は4635kgで、杉の木(高さ22m、胸高直径26cm、50年生杉)に換算すると333本が1年間に吸収する量に相当します。参加者の7割が小学生とその家族です。小学校は47校ありますが、参加率の上位5校は90%以上で、今回100%参加の学校がありました。それに比べて高校生と一般の参加が少ないですが、総合高校では学校独自に取り組んでいただきました。

当日、一般の方に呼びかけようと今年もエコ商品お買い物&ノーレジ袋キャンペーンを行いました。エコ工作や

カーシェアリングの車に絵を描いたり、エコ実験なども行いました。結果をグラフにしていますが、「レジ袋をもらわない」「きょう」と「いつも」の行動はあまり変わらないようですが、「いつも」もらわない人は少しですが増えているようです。テーマの食の項目に注目すると、どれもエコライフDAYの方が高いです。自給率が39%と低く、食の安全が問題になっていますが、体は食べものからできているので食べることに関心を持って環境と健康の両面から考えていきたいものです。

ボランティアスクールやインターンシップ、市民ボランティア、川口珠算協会など、多くの方のご協力によって集計から報告書まで作ることができました。多くの方がエコライフDAYに関わって、参加者の声を聞くことで関心をもってもらえエコライフが広がっていくと思います。ご協力ありがとうございました。



第1部 「私のエコライフ」 発表

1 朝日西小学校 5・6年生 「朝日西小の環境への取組」

私たちは環境について勉強しました。

■夜の世界地図を見てください。日本の形がはっきりわかります。暗い国があるのに特定の国だけエネルギーを使っているのがわかりました。エネルギーは世界中の人々のものなのに特定の国だけが大切なエネルギーを使っているのでしょうか。この世界地図から見て光っていない所では私たちのような生活がおくれなくてすごく困っていると思います。光っている国と光っていない国ではすごく不公平だと思いました。私たちはずいぶんぜいたくしているんだなあと思いました。恥ずかしく感じました。

ツバルという島が沈んできているビデオを見ました。地球温暖化が進んで海面が上昇しているのです。このままでは私たちの未来も大変なことになってしまいます。私たちはつぎのことを調べました。

地球温暖化について、今降っている雨について、そして、川の汚れです。私たちの発表を聞いて下さい。

■これから酸性雨について発表します。

酸性雨は降ると花や木を枯らしたり、環境に被害をおよぼしてしまう雨です。酸性雨はどのようにして発生するのでしょうか。場所によって酸の多さは変わるのでしょくか。一緒に考えてみましょう。

まず初めは、都会と自然の酸の量です。ここでは、都会を埼玉県川口市、自然を熊本県山都町で調べます。最初に都会です。実験の結果、晴れが続いた日の雨では酸が強く、雨が続いた後の雨では酸が弱い中性でした。これは、雨が降るか降らないかで、酸がたまっているか、たまっていないかの問題だと思いました。

つぎに自然です。実験の結果、なんと都会と結果が同じでした。自然は環境をきれいにし酸性雨を降らさないというイメージでしたが、どんなに木がある自然でも、晴れが続いてしまうと酸がたまってしまうのです。では、そんな酸性雨を私達で止められるのでしょうか。

つぎは酸性雨のでき方についてです。そもそも酸性雨というのは工場などから出た煙で作られた雲から降ってきた雨のことをいいます。それに工場などから出た下水をそのまま川に流すと、生き物が死んでしまいます。先ほどの酸性雨のせいで花や木が枯れたり、コンクリートが溶けたりしてしまいます。私たちが利用している車やバスなどが



らも排気ガスを出しています。だから、私たちが環境破壊をしているともいえるのです。そんな酸性雨を止めるにはどうしたらいいでしょうか。

まずは、「排気ガス」を減らすのが大切だと思います。一説だと温暖化と関りがあるそうです。ですから少しでもCO₂を減らせるように3Rや買物する時はマイバックを持っていったりしたいです。私たちが、協力すれば酸性雨がいつか降らないときもやってくると思います。

■今、地球のことを大切にしないと大変なことになるのがわかりました。

私たちはたくさんの人によびかけて、エネルギーのむだ使いをやめて、ちょっと不便でも地球のためなら小さいことからこつこつとやって地球温暖化を防いでいきたいです。

そこで、私たちがこころがけていることがあります。

一つ目は水や電気などのエネルギーを大切にすることです。水を使うときは出しっぱなしにしないことや電気もつけるときは節電をしています。

二つ目は、ものをなるべく長く使うようにしています。使わなくなった物はリサイクルしたり、フリーマーケットに参加したりしています。捨ててしまうものは他のものに作り変えたりします。これは、私が作ったエコバックです。もとは私のスカートでした。

三つ目は、二酸化炭素を減らすことです。出かけるときは、バスや自転車や歩きで行くようにしています。まだまだ、できることはたくさんあります。みなさんも自分からできることをさがして、小さいことからこつこつとやって地球温暖化を防ぎましょう!!

2 上青木南小学校 5・6年生 児童会「学校でのエコ活動」

これから、上青木南小児童会で取り組んでいるエコ活動について紹介します。

○上青木南小では、おとしから給食の牛乳パックと学校で出される古紙の回収、そして、その年の2学期からは、家で飲んでいる紙パックや新聞紙を持ってきてもらい、それも合わせて資源回収に取り組んできています。みんなの協力で、交換してもらったトイレトーパーの数も少しずつ増えて、1年間に学校で使うトイレトーパーのうち、4分の1ぐらい交換したものでまかなえるようになりました。

また、三井君の呼びかけで始まった、「アルミ缶・プルトップを回収して車椅子に!」の活動も、みんなの協力や4年生のリサイクルキャンペーンの取り組みでたくさんのアルミ缶やプルトップを集めることができました。この1学期には1台購入できる分が集まり、今2台目購入をめざしてがんばっています。

○今年も、学校の生活の中で、私たち一人一人ができる環境をよくする工夫について話し合い、2学期には、昨年に引き続き「ココロ・エコ月間」として、次のことに取り組んでいます。

まず、一つめは、「学校生活でのエコを見直そう!」の取り組みです。

(旧)ものを大切にしよう

(月)ごみを分別しよう

(火)節水・節電を心がけよう

(水)給食を残さず食べよう

(木)リサイクル活動をがんばろう

この5つを代表委員会や児童会新聞で全校によびかけ取り組んでいます。

今年の合言葉は、「あなたが気づけばエコがかわる」私たち一人一人が自分から行動できることをめざしてがんばっています。

2つめは、「ペットボトルのふたを集めて、ワクチンに!」の取り組みを始めたことです。

私の母が働いている病院で集めているのを知り、児童計画委員会で話し合い、全校のみんな・家庭に呼びかけて開始しました。どの家でも出るものなので、1週間ほどで、大きな袋いっぱいになるほど、どんどん集まっています。

○最後に、19年度の3学期に取り組んだ「アフガニスタンの子供たちにランドセルと学用品を贈ろう」の活動についてお話しします。

国際NGOジョイセフが取り組んでいる「思い出のランドセル募金」を知った6年の丹下君が、冬休み計画案を作ってきたものを、児童会計画委員会で話し合い、取り組むことになりました。



毎年3学期、上南小の児童会では、書き損じはがきを集めて寄付する活動とユニセフ募金に取り組んでいます。丹下君が調べてきた資料で、学用品を入れたランドセルを1個アフガニスタンに送るのに、お金だと1800円、書き損じはがきだと40枚かかることを知り、毎年取り組んでいることとタイアップして取り組む計画を立てました。

児童集会で「アフガニスタンの子どもたちにランドセルと学用品を贈ろう」の取り組みを全校に知らせ、家にある使わない学用品や書き損じのはがきを持ってきてほしいこと、送料の募金を呼びかけました。3日間の取り組みでしたが、みんなからたくさんの学用品とはがき、お金が集まり、12個分のランドセルを送ることができることになりました。

卒業する6年生にランドセルの寄付をお願いしましたが、希望者が多くてジャンケンで各クラス4人ずつ決めてもらいました。3月26日に、5年の児童計画委員会で、学用品をランドセルにつめて、ジョイセフに送り、アフガニスタンに届けてもらいました。

4月新学期が始まってからすぐ、ジョイセフからお礼のメッセージが届き、とてもうれしかったです。児童集会や児童会新聞で全校にも紹介し、全校で喜びました。また、今年度も取り組みたいと思っています。

これからも学校でのエコ活動の取り組みの成果を、全校のみんなにわかりやすく紹介し、「ちょっとした工夫や心がけでCO₂を減らせる」ことを、実感してもらいながら、楽しく活動していきたいと思っています。

③ 芝中学校 1年生 「私たちに出来ること 食品トレーの回収」 小嶋夏光 片岡あかり 森元里香

私たちは、芝中ISO部です。

キッズISOプログラムとはInternational Organization for Standardizationのことで、環境マネジメントの子供でも取り組めるプログラムです。私たちは、初級認定にも挑戦しました。

温室効果ガスをそのまま出し続けていったとした場合、100年後の世界各地の気温上昇予測の結果、地球全体では、最大で約6.4℃上昇すると予測されています。世界各地で均一に気温上昇するのではなく北極を中心に気温が10℃から12℃程度も上昇するといわれています。私たちにできることはないでしょうか？

私たちの街を調べてみました。

スーパー名	回収しているもの	回収量
マルエツ芝塚原店	・牛乳パック ・食品トレー	・牛乳パック 48kg ・食品トレー 155kg(5月実績)
ジャスコ川口前川店	・牛乳パック ・アルミ缶 ・食品トレー ・卵ケース ・ペットボトル ・ペットボトルのキャップ	・牛乳パック 324kg/月 ・食品トレー 36kg(7月実績)
西友川口芝店	・牛乳パック ・アルミ缶 ・食品トレー	・牛乳パック 40L袋×2 ・食品トレー 70L袋×3
イトーヨーカ堂	・牛乳パック ・ダンボール ・ペットボトル・食品トレー	・牛乳パック 150枚 ・ダンボール 500kg～700kg
ベルク	・牛乳パック ・ダンボール ・ペットボトル・食品トレー ・空缶 ・雑誌 ・空びん	台車20台

課題点・・・食品トレーは、市の回収ではプラスチックとして回収されているが、リサイクル効率は50-60%と高くない。一方、スーパーで食品トレーとして回収され、リサイクルされるとリサイクル効率はほぼ100%と高い。スーパーの食品トレーの回収に協力している人はまだまだ少なく課題がある。

『食品トレー回収率アップ大作戦』に挑戦しました。

目標：年間1000キロの食品トレーの回収

Plan：8、9月 課題点をふまえた計画
Do：11月～1月 呼びかけ、店内放送、ポスター掲示
Check：2月 回収量を調べる
Action：3月 課題点を出して次の計画につなげる
↓
Plan：4、5月 回収量を調べる
Do：6～8月 近隣の学校にも呼びかける大作戦
Check：9月 回収量を調べる
Action：9月 今後続けてもらうための仕組みづくり



私たちの願いは、街の人たちに、私たちの活動を知ってもらい、理解・協力をしてもらうことです。この活動を通して、私たちも環境について、たくさんのことを学びたいと思います。そして、私たちの住む地球の環境をすこしでもよくしていきたいです。

最後に、私たちの取り組みは、マルエツ芝塚原店といっしょに行なっています。ぜひ、マルエツ芝塚原店にお立ち寄りの際は、食品トレー回収にご協力ください。

私たちにできることから始めませんか？

4 本町小学校 5年1組 「身近なエコ活動」 橋本密・大崎真穂

私たちは「身近なエコライフ」を課題にいろいろ調べてきました。今日は実践した数々のエコを紹介したいと思います。

今までに総合では、ごみや川の汚れについて、社会では水について、国語ではごみについてなどと、いろいろと環境問題について学びました。そして今、私たちの街川口も汚れ始めています。私たちはそんな地球を救うため、簡単なエコを考え、実践しようと思いました。



■「米ぬかで食器をきれいに」

みなさんの家には米ぬかがありますか？私の家にたまたま米ぬかがあったので、米ぬかでコーヒーのあくを取ってみました。やり方は米ぬかを少しぬれふきんでとって、コーヒーカップの内側を軽くこすりました。すると、コーヒーのあくがとれ、ピッカピカになります。



■「カサをすてる前に…」

つぎは、カサ布を変身させます。いらなくなったり、折れたりしたカサ、今家にありませんか。そのまま捨てるのはただのごみになってしまいます。私たちはそんなカサをエコバックに変身させました。作り方を説明します。

まず、カサの骨組みをすべて外し、一枚一枚切りとって三角形の形にします。つぎに、切り離したカサ布4枚を組み合わせ、底辺の一方と頂点を縫い合わせて平行四辺形にしてから両側を縫い合わせて筒状にします。最後に底を縫い、残り2枚を持ち手にします。するとバックができ上がります。私は、最初は難しいと思ったけど、思いの外簡単にできました。カサ布は薄くて丈夫で、カサだから雨にも強く、またカサはいろんな柄があるため、捨てようとしているカサがある人は作ってみてください。

カサでエコバックができるのを知っていましたが、作ったことがまだ一度もありませんでした。しかし、作ってみて、骨組みを外すのは難しかったけれど、それ以外は簡単にでき、でき上がった時にうれしさがありました。作って良かったと思います。みなさんもぜひ、作ってみてください。

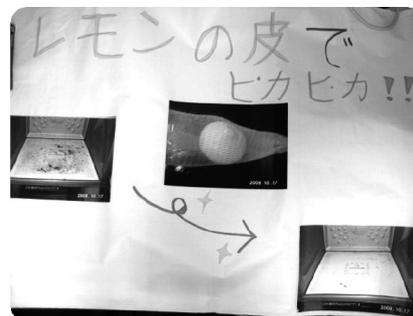
■「その他にも」

・ご飯をたいて、余ったらすぐにタッパーに入れて冷凍します。食べるときは、レンジでチンして食べます。ちなみに、これを毎日続けると年間34kgのCO₂削減、また、年間約1900円の節約につながります。

・届かないところやすき間のそうじに、要らなくなったタオルやストッキングを使い、はたきとすき間そうじ棒を作りました。これも簡単に作れ、ほこりもきれいに取れるのでスッキリして一石二鳥です。

・洗剤を使わずそうじするためこんなものを作りました。毛糸を何十回か巻いて作った“たわし”です。

・最後にレモンの皮です。レモンの皮って捨てていませんか。レモンの皮には物を溶かす作用があります。そこで、レンジの周りの油污れを落としました。写真を見てください。私の家の電子レンジがよごれていましたが、このようにきれいになりました。どちらも洗剤を使わないアイテムなので、海や川の水を汚さずにすみます。



○私は要らなくなった物がこんなにいろいろな物に変わっておもしろかったです。レモンの皮でレンジの油污れが落とせてきれいになったり、米ぬかで汚れたコーヒーカップがピカピカになったり、ごみっていろいろ使えてすごいなあと思いました。

○私は、エコをいろいろ実践してみて簡単で楽しいので続けてできることに気がつきました。あと1歩でゴミになってしまうものを、たくさんものものに作りかえることは、作り変えたものを買わなくてすみ、また材料もほとんどお金がかからず、おさいふにもやさしく、地球にもやさしくできました。エコはとても楽しいので、こわれた物や要らなくなった物はこれからもいろいろと工夫して作り変えたりして使って行き、ごみを少しでも減らせるようにしたいです。これで発表を終わりにします。

5 戸塚南小学校 4年生 「グリーンカーテン大作戦」

戸塚南小学校では いろいろな環境活動に楽しくとりにくんでいます。

これは今年できた エコ活動のシンボルデザインです！

牛乳パック・古紙リサイクル、アルミ缶リサイクル、斜面林をいかしたカブトムシ飼育、ツリークライミング、いろいろな活動にとりにくんでいます。

今年も戸塚南小学校では 4年生が 理科のゴーヤの学習とつなげてグリーンカーテンをつくりました。グリーンカーテン大作戦を報告します！

4月 4年生みんなでグリーンカーテンをつくることを決めました。

川口市環境総務課さんにお電話してグリーンカーテンくらぶに入会しました。

まず ゴーヤの種から芽が出るように工夫しました。

にがうりクラブのにがあるじさんから教わって、種のでっぱりを爪切りできって芽を出やすくしました。

5月 小さな部屋に暖房をいれて 27度にして部屋は沖縄にしました。

根や芽がでて どんどん成長していきました。

芽がでたところで ポットにいれて苗を育てました。

そして 5月26日「グリーンカーテン大作戦」のはじまりです。

地域の方、にがうりくらぶのにがあるじさん、お父さん、お母さん、木曾呂小でグリーンカーテンをつくっている木曾呂小のお母さんも応援にきてくれました。

苗の大切さ、土の大切さを教わって大作戦開始です。

今まで芝生だったところを 掘り返して畑にします。芝生をはがして土を掘り返しました。土には腐葉土と牛糞をいれました。

そして 苗を植えました

もう、みんな汗びっしょりで頑張りました。



掘り返して畑に

ところが それから一週間しても 苗は元気ではありませんでした。
いったいどうしたんだろう。

みんなの話し合いでは、ずっと土がよくないのかな?ということでした。

土に栄養をあげすぎたのか?栄養がたりないのか?

すぐに苗を植えたのがよくなかったのか?

時間をおいて苗を植えかえてみました。

それでも ゴーヤの苗は元気になりません。

土をかえて植え替えると 苗は水をあげるだけでいきいきしてきました。

そこで おもいきって土を全部とりかえることにしました。

「グリーンカーテンSOS大作戦」の開始です。

もう、みんなへとへとになるまで頑張りました。

でも、そのおかげでゴーヤの苗はとても元気になりました。

ゴーヤの成長を写真でごらんください。

お花もめ花もたくさんさきました。

7月17日には、自動散水機も開通しました。

追肥には、牛ふんをあげました。

たくさんの ゴーヤの実がなりました。

9月 学校の給食室でゴーヤチップスをつくってもらい、みんなで食べました。

まずゴーヤを切って なかをとり、水あらいしました

次に かたくり粉をまぶします。

油であげます。

最後に塩をふってできあがりです。

4年生では各クラスでゴーヤパーティーを開きました。

ゴーヤアイスクリームをつくりました。

ゴーヤを育てながら 植物の勉強はたくさんできるし、

友だちと協力して育て、みんな仲良くなるし、食べるとおいしいし、校舎はずずしくなるし、地球にもやさしい。一石二鳥どころか 一石五鳥にもなりました。

みんなも楽しくゴーヤを育ててください。



SOS大作戦



7月1日



8月15日



6 仲町中学校 3年3組 「身近にできる環境保全」 小泉勇人

身近なことから始めるエコというのをテーマにしました。そしてこれから、今の状況を踏まえて話をしていきたいと思います。

僕たちは、日本に住んでいる限り、直接環境被害を受けることもなく、毎日普通の生活を送っています。しかし、今、この地球は深刻な環境問題に悩まされています。

日本に住んでいる僕たちは環境問題について、メディアによって時々報道されるごく一部の状況しか知らないと思いますが、今、世の中では環境問題による生態系の異常や異常気象、海水面の上昇による国の水没、酸性雨等、世界各地でさまざまな被害を受けている地域がたくさんあるのです。

このような現状の中で、今の悪い地球環境を改善しようと、世界各国で国を挙げての様々な取り組みが行われはじめました。しかし、僕たちは地球のために何ができるのかあまりわからないと思います。

ここで、僕が日常生活の中で、心がけていることを発表したいと思います。

一つ目に、発生抑制という意味のリデュースです。



リデュースというのは、物を大切にすることやごみをあまり出さないようにしようというものです。

リデュースの取り組みとして、この川口市でも11月10日の川口の日から、主なスーパーでレジ袋の無料配布が終了し、マイバックを利用してもらおうという取り組みがはじまります。普段、何気なくもらっているレジ袋の年間利用量は、日本だけで約25万tといわれています。この数を枚数に表すと、日本全国で約310億枚、一人あたり約250枚も使っていると考えられます。いかに膨大な数が使用されているのかわかると思います。

全国民がレジ袋をもらわず、マイバックを使うことにより、約25万トンというごみを減らせるのです。マイバックはこのように小さく折りたたんでカバン等の中に入れておけば、必要なときにすぐ利用でき、袋をもらわずに済みます。

二つ目は、再利用という意味のリユースです。

リユースは、資源をくり返し使おうというもので、主な取り組みとして、ビンについてあげられると思います。僕達の身の回りには、たくさんのビンが存在しています。その種類として、牛乳ビンや酒ビン、ビールビン等、いろいろ思いつくと思います。

最近では、環境のことを考えてそのビンのほとんどがリターナブルビンでできています。リターナブルビンというのは、洗って何度も繰り返せるビンのことをさし、使い終わったリターナブルビンをお店や業者に洗って返すと工場できれいに洗浄され、そのまま同じビンとして再利用されます。これが、リターナブルビンです。このように再利用することで、大切な資源を使わずにすむのです。今あげたビンの他にも、充電式の乾電池など、環境に配慮した者もたくさん使われています。

三つ目に再生利用という意味のリサイクルです。

リサイクルという言葉は、日常生活の中で良く聞く言葉だと思いますが、簡単にいうと再生して再び使おうということです。たとえば、ペットボトル等は回収され、また新しいペットボトルに作り変わったり、新しい石油製品になったりします。空き缶もリサイクルされ、また缶になったり鉄板になったり、はたまた自動車や飛行機にもなったりします。しかし、リサイクルをするには、ごみを捨てる際の分別も大切になってきます。すべてのごみを可燃ごみとして捨ててしまえば、せっかくの資源も無駄になってしまいます。

たとえば、このペットボトルの場合、ラベルの部分にプラマークと呼ばれるプラスチックでできていることを表すマークがここについています。ここには、キャップとラベルがプラスチックと表してありますが、プラスチックごみとしてごみに出せるものは、プラマークがついているものだけなのです。つまり、このペットボトルは、ラベルのプラスチックごみ、キャップの不燃ごみ、ペットボトル本体のごみと三種類になりました。しかし、今僕は、プラマークのついていないものはプラスチックごみだといったのですが、ポテトチップスの袋のように汚れているものは、再生利用するものが難しいので、普通の一般ごみに出すこととなります。

つぎにこの紙パックです。紙パックは、飲み終わったら、洗ってこのように切って紙ごみとして出すことができます。紙ごみは、回収されて、ティッシュやトイレットペーパーになったりします。

今日は、時間の都合で、他のものは紹介できないのですが、他にも資源になるごみはいっぱいありますので、みなさんも、家に帰ったらぜひさがしてみてください。

今いった、このリデュース・リユース・リサイクルを、まとめて3Rといいます。一人一人が自覚して3Rを心がければ、ごみの減量化はもちろんのこと、環境のことを考えた生活へと変わり、これらの身近な取り組みが世界を変える鍵となるのです。

僕たちが環境のためにできることはこのように身近にたくさんあります。みなさんも、家庭で地球に優しい生活をしてみてはどうでしょうか。近くで買物に行く際は、車を使わずに徒歩や自転車で出かけたり、レジ袋を断わってみたり…、これらのことが日常化すると、知らずの内に毎日がエコライフデーになるのです。これで僕の発表を終わります。ありがとうございました。

7 朝日東小学校 6年生 児童会「エコへの取組」

私たちの学校で、今年児童会で考えて始めた、環境にやさしい取り組みについて発表します。

まずはじめは、地域清掃についてです。学校では、月に一回地域清掃を行なっています。学校全体でごみを拾い、環境について考えようという声がかからあがったので、その意見を取り入れて始めました。1年生～6年生までがいっしょに、約12名ずつ40組の班に分かれて学校の周りを清掃しています。

さらに、環境のことを考えて、ごみを拾うだけでなく、その拾ったごみも分別をし、エコにつなげています。種類は燃えるごみ、燃えないごみ、ビン、カン、ペットボトルの5種類で、燃えるごみの量がとても多かったです。特にタバコの吸殻や空き箱のごみが多く、常識としてはありえないポイ捨てを大人の方がするのは驚きました。場所は、近くの公園、橋の周り、私たちがいつも通る通学路などで、毎回場所が変わるので1年にいろいろなところを掃除できます。



また、その場所はいろいろな場所に区切られます。たとえば公園。近くの交通公園の場合、公園内を4つにわけ、さらにその周りも4つにわけ、1つの公園でも8班が掃除をすることができます。しかも、同じ場所の中でも、あそこではこのごみが多くてそこではそのごみが多いと、いろいろな種類のごみの発見ができます。特に大きいものでは、自転車、鉄のパイプなどが落ちていたりしました。

この行事は、今年から始めました。7月から始めてまだ3ヶ月ですが、まだまだ続けていきます。ごみを拾う、だから捨てないという環境についての関心を持ち、温暖化についての理解をして欲しいと、私たち児童会は願っています。

もうひとつのエコライフ、それは、カサの貸し出しです。去年までの卒業生が忘れていった不要のカサを再利用して、突然の雨のときに役立つようにしています。これは、倉庫の中に入っているカサを見た時に考えました。カサを忘れてしまった時でも、いつでも使えるという便利な仕組みになっていて、カサを忘れ、濡れて帰り風邪を引くということがないように始めました。「3つのR」の「リユース」にあたり、役立ってもらえるので一石二鳥です。捨てられてしまうものを役立つものにしようと考えました。

使うカサも、壊れていないかを点検し使えるものを用意しました。カサ1本1本に番号をつけました。そして「貸し出しノート」を作って、クラス、名前、借りた日と返した日を借りるカサ番号のしたに記入してもらい、それをすべて児童会と先生方で点検します。2つの昇降口に、余っていたカサたてを利用して置いています。今はまだ15本程度ですが、利用する人が増えたら、みんなの家にある不用でしっかりしているカサを集めて、それも利用しようと考えています。

この活動は今月から始めたばかりなので、まだあまり利用が進んでいませんが、これからみんなに活用してもらいたいと思います。そして、朝日東小としては不用になったものでもこのカサのようにどんどん再利用して活用できるような活動を進めていこうと思います。

8 木曾呂小学校 4年・5年・6年生+PTA 野本りょう 「グリーンカーテンができたよ!」

私たちは、木曾呂小の有志PTAと地域の方と一っしょに活動しているボランティアグループ「風の木」です。グリーンカーテンの設置や校内の草取り、枯葉掃除など、緑や環境に関わる活動をしています。

グリーンカーテンを始めたきっかけは、初夏の朝自習の時間、読み聞かせボランティアに入ったお母さんがとても暑い教室に、子供たちのために何かできないかと思ったことからでした。

そんな思いから始まったグリーンカーテンも3年目に入り、今年は、ここにいる4年生の子供たちのクラス、1番暑い南側校舎3階へ。今回は校長先生や学年の先生方のご理解、ご協力もあり、初めて4クラスつなげての設置となり、温度計測でもカーテンのあるなしではコンスタントに2℃差があり、効果も出ました。



設置については、種の購入から設置までを「風の木」メンバーで。夏休み前までの水遣いを子供たちと先生で。夏休み中は「風の木」メンバーが当番で、10月22日の撤去までの間、こうしてみんなでお世話をしてきました。

植えた種類はアサガオ、ゴーヤ、フウセンカズラ、ハヤトウリです。ベランダで発泡スチロール箱を使って育てたので、3階までの土運びがちょっと大変でした。今年は地域の方の協力もあり、立派なカーテンができ、実もいっぱい採れてメンバーや先生、近隣の方にも配ることができ、コミュニケーションも取れました。フウセンカズラの種は、子供たちも大好きで喜んで集めてくれました。

活動していてうれしかったことは、朝自習の時間に4年生の子供たちに向けてお話をする機会もあったためか、子供たちが会うと声をかけてくれるようになったことです。カーテンの様子を話してくれる子もいました。子供たちはお世話をしていきながら、成長の観察もしていたようです。

この活動で感じたことは、直接ふれること、実際に体験することが大事だということです。いくら話をしても、理論だけでは心に響かず残らないと思います。子供たちの近くに緑があって、毎日目にすることで、植物の成長を身近に感じることができ、心に何かを残してくれると信じてこれからも続けていきたいと思っています。

今日は、その4年生の子供たちの中から、夏休みゴーヤの自由研究をした野本君に発表してもらいます。野本君のうちでは、4年前から夏になると、西側の窓にゴーヤのグリーンカーテンをつくっていたそうです。50本くらいのゴーヤがとれ、涼しさも体験されていたそうです。

●ぼくの学校には、今年の夏ツルレイシのグリーンカーテンがベランダいっぱいありました。教室の中から見ていると涼しい感じがしていました。午前中にはツルレイシの香りがしていました。そこでぼくは夏休みの自由研究として、ツルレイシの育ち方について調べようと思いました。ちょうどぼくの姉も2年前に調べていたことも研究するきっかけになりました。また、ぼくの家でも西日をさえぎるためにゴーヤを育てていたことも理由の一つです。

まず、小さなゴーヤにリングを入れて育てる観察をしました。結果は、ゴーヤが二つに分かれて育ちました。また、食べてみると、下は甘みがあり、上が苦いことがわかりました。

次にゴーヤをペットボトルに入れたらどうなるかを調べました。

するとペットボトルの形になりました。

食べようとしたのですが、硬くて料理できませんでした。

さらに、黒い紙にゴーヤを包んで太陽の光をさえぎって育てました。

すると、真っ白なゴーヤができて、黒の紙で温度が上がったため、中は熟していました。

最後にゴーヤはいつ大きく育っているのかを観察しました。

すると、夜、大きくなっていることがわかりました。

グリーンカーテンのおかげで、夏の日差しをさえぎることもでき、部屋の温度も2～3度低くなります。ゴーヤのいろいろな観察もできました。これからは毎年欠かさずゴーヤを育てたいと思います。



9 川口市立川口総合高校 2年生JRC部 「指定モデル校としてのエコライフの取り組み」

〈学校の概要〉

川口市立川口総合高校は、川口市上青木3丁目にある総合学科の男女共学高校です。

平成9年に川口女子高校から改称し共学化しました。創立80年の歴史があり、卓球部、ソフトテニス部、柔道部、吹奏楽部など、部活動の盛んな学校です。

〈JRC部の活動〉

JRCとは、青少年赤十字(Junior Red Cross)のことで、青少年が赤十字を正しく理解し進んで赤十字運動に参加することを目的に、各学校の中に組織されています。埼玉県では、約400校が加盟指定しています。JRCのモットーは、「気づき、考え、実行する」です。私たち川口総合高校JRC部は、校内献血、募金活動、文化祭でのクッキーやプリンの販売、老人ホームの夏祭り、校内清掃など、様々なボランティア活動をしています。現在部員は、3年生が8人、2年生が7人の合計18人です。男子は3人で少ないのが悩みです。

〈エコライフDAY2008の協力モデル校に指定される〉

川口市から今年3月に本校がエコライフDAY2008協力モデル校に指定されました。

先生方が校内で検討した結果、JRC部と美化委員会が中心となって実施することに決定しました。

JRC部、美化委員会、職員の三者が互いに協力して企画し、今年のエコライフDAYを実施しました。

○JRC部

・事務局として、全般的な企画をしました。

- ・5月に手作りのエコライフDAY宣伝ポスターを作成し、校内に掲示しました。
- ・6月9日に回収したチェックシートの集計を2日かけて実施しました。

○美化委員会

- ・6月初めに、クラスでポスターを掲示しながら説明し、協力をお願いしました。
- ・6月6日(金)にクラスで練習用チェックシートを全員に配布し8日(日)の参加を呼びかけました。
- ・6月9日(月)の帰りのHRで提出用チェックシートを全員に配り生徒に記入させてその場で回収しました。
- ・川口市から配布された実施報告ポスターをクラスに掲示しました。
- ・『ごみの散乱防止と再資源化を進めるための標語』を各委員が作りました。

優秀作「リサイクル 地球を守る エコ活動」(1年生)

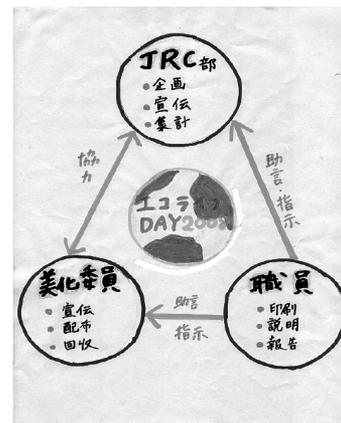
「再利用 過去の思い出 うけついで」(2年生)

○職員

- ・川口市の担当者と連絡・調整しました。
- ・職員会議でエコライフDAY2008の実施を提案しました。
- ・職員にエコドライブの協力を要請しました。
- ・練習用チェックシートを生徒全員分印刷しました。
- ・JRC部が集計した結果を点検・修正し、集計結果を市へ提出しました。
- ・校長室の窓際にグリーンカーテンの設備を設置しました。

〈その他の活動〉

- ・生徒会主催の2回のクリーン活動で環境問題を考えます。
- ・今年度の修学旅行(和歌山方面)を環境学習の一環として実施します。
 - 新幹線のエネルギー消費は飛行機の10分の1
 - 和歌山の自然体験
 - ラムサール条約に登録された串本海岸地域と世界遺産としての紀伊山地の学習
- ・年間を通して校内の節電・節水を呼びかけます。



〈まとめ〉

- ①生徒693人と家族314人が参加し、7033gのCO₂を削減することができた。
- ②チェックシートの回収率が83%と高かった理由は、家庭に持ち帰る練習用チェックシートを独自に用意して配り、提出用チェックシートは学校で配ってその場で回収したため。
- ③JRC部が企画し、各クラスの美化委員が実施するという役割分担がよかった。
- ④エコライフDAYの1日だけでなく、年間を通じたエコライフをこれからも校内で呼びかけていきたい。

10 参加者へのメッセージ

● 大東文化大学附属第一高等学校 3年 平林 豊

牧野が代読します。

みなさんこんにちは。私は大東文化大学第一高校三年生の平林といいます。私は、この環境フォーラムに参加したのがきっかけで、大学でも環境について勉強する予定です。

私は中学生時代に給食委員をやっていました。

みなさんは、給食室での残り物をじっくりみることがありますか？ ごちそうさまの後の給食室では、ついさっきまで教室で食べていた給食が、ゴミのようにかた付けられていきます。そんな光景を毎日のように見ていると、いつも悲しく、もったいないなあと思っていました。



読み手:牧野

そんなとき、エコライフDAY2005のチェックシートの「日頃もったいないと思うこと」に、給食室で日ごろ思っていることを書きました。

それがきっかけとなって、中学三年の時、環境フォーラムに参加しました。フォーラムに参加し、他のグループの発表を聞いてリサイクルや大気汚染にも興味がわきました。

そして、大学でもっと環境について詳しく学んでみたいと思って、環境創造学部のある大東文化大学の付属の高校へ進学しました。

併設の大学の校舎に風車が設置されていたり、ペットボトル回収機があったり、ソーラーパネルがあったりと環境対策に力を入れているのも魅力の一つでした。

高校入学後は、毎年、大学主催で板橋環境講座というのが開かれていて、そこに参加もしました。

ここでは、大学の先生、大学生、高校生、地域住民の方が参加し、身近な環境問題について話し合ったり、討論したり、時にはエコポリスセンター(朝日環境センターのような施設)の所員の方や板橋区役所役員の方のお話を聞いたりということを行っていました。

ここで学んだことは、環境問題は大勢が協力して実践していかないと環境は良い方向へ進まないということです。また、一人一人が小さなことからでもいいので、行動を起こし、それを続けていくのが大切だと知りました。

このフォーラムに参加しているみなさんは、既にチェックシートの項目は実践あるいは、これから実践するとは思っているので、今度は家族・クラスのお友達にも、このフォーラムで知ったことを教えてあげてください。そして、エコライフの輪を広げていけたらいいと思います。

●「高校生から大人に向けて一言」

埼玉県立浦和第一女子高等学校 1年 小樋山 清蓮

今日は高校の授業があり参加が叶わなかったため、後輩の小泉が代読します。

牧野さんから、「高校生から大人に向けて一言」との事だったので、ここ1年常々思ってきたことを僭越ながらお話しさせていただきます。

突然ですが、皆さんは日頃空を見上げたりすることはありますか、おそらく日々の忙しさからそんな余裕などないと思いますがどうですか。昨日の夕暮れ時の空が一体どういう様子だったか覚えている人はいますか。

何故、空かというと、空が都市という人造物の中で唯一の自然、或いは都市にあって都市がコントロールできないものの一つだからです。

“中”というのは少しおかしいですが、とにかく人の意識でどうにもならないもの、すなわち「自然」の中(うち)でも、田舎と都市に共通してあるものです。かの養老先生の言葉に「(人の)意識という都市、(人の)身体という田舎」というのがありますが、そういうことです。話の筋を先に言ってしまうと、要するに、実物の自然にふれもせず自然、つまり環境を語る事ができるかということです。

例として、今年の夏の話をして。今年の夏といえばやはり「ゲリラ豪雨」でしょうか、わずか数十分で巨大な雨雲を形成し、ひどい雨をもたらすから「ゲリラ」の名がついたと聞きます。天気予報でも警報が間に合わないため、頭からずぶ濡れになった人も多いでしょう。

しかしながら、私はそうして濡れてしまった人たちは、全くもって天気に関する「関心」がなかったために、雨の襲来を予期できなかったのではないかと思うのです。今年の夏に私が見た人々は、雲が厚くたれこめ、辺りが暗くなっているのにも気づかず、雷鳴が遠方でとどろいていることにも気を留めずに道を歩いていました。彼らは傘も持っていないのです。

というと、「私は天気予報を毎日見る」という人が出てきますが、あれは天気予報の観測台からの記録という「情報」を参考程度に聞くもので、予報通りの天気にならないことを「外れる」何ていいますが、それは私達の感覚が鈍っているというだけのことです。海に出た漁師がテレビの天気予報を見るかといえばおそらく、今眼前に広がる空を読むでしょう。

私は我々の感覚が鈍っていると言いました。それは、都市では全てが情報化され、人々が情報を基に思考をしているからです。情報と情報から“AならばBで、CならばDである”というような命題をつくりあげているので現実すな



読み手:小泉勇人

わち自然がそれにそぐわないと、自然の方が変だと錯覚するのです。こういう「ああすればこうなる」式の考え方は短絡的で融通の利かない考え方です。ここで自然とは我々の身体を感じる感覚のことです。これでは、私たちの頭と体はちぐはぐで対立してしまいます。

このようなものの考え方の例に私は「コンビニエンスストアの深夜営業規制」のことを挙げたいと思います。かなり話題になりましたね。賛成派の理由に深夜営業は利用客が少ないにもかかわらず一晩中電気をつけていて温暖化を促進している、人々が夜型の生活になる原因だなどがあつたのですが、これらに一体何の根拠があるのか明らかではないにもかかわらず、多くの人々がこの意見に賛同し、コンビニやその夜間利用客に対して批判が相次ぎました。そもそも人の生活スタイルに地方が口出しできるはずがないのにおかしい話です。特にいけないことは「コンビニがなくなればエネルギーの無駄が減る」などと安易に考える人が出てくることです。

おそらくその人は環境によいことと考えているのでしょうが、それは間違いです。私は環境問題の起源がいつからかは知りませんが、要は人が自然という複雑な系を「ああすればこうなるの考え方」で考え、扱ったその付けだと思っています。ですから特にこれといった根拠もなく「コンビニが消えれば温暖化が止められる」と思った人はそうやって自然を破壊してきた人々と脳の回路が同じなのです。

自分で調べたり実験したりして確めた訳でもないことを信じることができるでしょうか。実物にはふれたことも、見たことも嗅いだこともない花を文献にあっただけで知ることができるでしょうか。

今、この世界の環境問題を考えているに当たって人々に欠如しているものは、リアルな感覚です。情報で自然を考えることは、不可能です。今日の大気は、雲は、鳥は、草はどうだろう、そんな身近な自然にすら「関心」がない人がテレビの中のツバルの島が沈んでいくことに「可哀想だ、これも温暖化だな」などといっているのを聞くと嫌気がさします。

私はみんなある種の後ろめたさを持っているのだと思っています。「ぜいたくさ」に対する後ろめたさです。そして下手にエコロジーをうたっているものにひかれてしまうのです。でもそれは偽善的ではないですか。私は、そんな無理はもうやめましようと思案したい。それだったら空を見る方が良いです。主婦でも会社員でも日々の雑踏のなかでふと立ち止まって心を落ち着かせれば、見えなくなっていたものが見えるようになります。地球なんてそんな大きいものよりも、まず、一秒として同じでない空を見つめながら、また日々刻々と変化していく自分という自然その生き方を考えてみられれば、それが環境問題を考える第一歩ではないでしょうか。

11 インターンに参加して 埼玉大学 石川紘平

私は、埼玉大1年の石川です、大学の講義でNPO法人である川口市民環境会議さんに夏休みの10日間お世話になりました。インターン先はいろいろ候補があつたのですが、最近、環境問題がますます深刻になってきたことと、環境にもともと興味があつたこともあり、わたしも環境のことについて何か活動してみたいと思つたのがきっかけでした。

いまでは、連日のように環境問題に関する情報が飛び交っています。テレビではCMでよくエコという言葉を使います。社会全体でこうやって環境問題に興味を持ち、どうにかしようとして動いていることはすごくいいことだなぁと思っています。

わたしは、地元の中、高校に通っていた時は、環境問題で地球が大変だということは知っていても、じゃあ実際に自分はどうすればいいのだろう?と考えるだけで結局何もできませんでした。地元は新潟の山に囲まれた、どちらかというと自然があふれていて、環境が悪いことをあまり実感させてくれない地域だったこともあるのかもしれませんが。雪も山のように降るので、学生の頃は毎朝、学校に遅刻しないように、雪で滑りやすくなった道を、全力疾走しながら、温暖化のわりに寒すぎるとよく嘆いていました。

けれど、埼玉にきて、一人暮らしを始めると、生活の中でいろいろと見えていなかったものが少しずつ見えてきました。普通に生活していても、一人暮らしだというのにゴミがたくさん出てきます。

特に驚いたのは、プラマークのついたものですが。ああ、これでまた石油がどんどん使われて資源が減り、温暖化も



進んでいくわけかとしんみり思ってみたりもします。

川口市民環境会議さんにお世話になった10日間の活動の一つに、リサイクルプラザでのプラスチックの手分別の作業を体験するものがありました。体験した時間は短かったのですが、かなり大変でした。ちゃんと分別している人が少なすぎると思えるほど、さまざまなものが混ざっており、電池やカン、ペットボトルに金属物、なかには医療器具まで混ざっている時もあり、危険を伴う作業でした。プラマークの付いているものでも、汚れがひどいものが多かったです。この体験をした前と後では、分別に対する考え方も変わり、適当にやるのは申し訳ないと思わざるを得ません。

さらに、10日間の体験のうちの一つとしては、荒川の河川敷のごみ拾いを行ないました。実際、川岸には多くのごみがあり、夏の暑い日差しの中、汗だくになりながら、何袋にもなるごみを集めました。地元の川と比較して考えてみると、かなり濁っていて、人が入って泳ぐなんて無理だなと思いました。同じ日本でのこんなにも違いがあるのかと驚いたほどです。こういった面からでも、環境問題は目を伏せておくことはできない事態だと実感することができました。

どうして、こんなにもごみが落ちていたり、分別が上手にできなかつたりするのだろうかとも考えてみたりもしました。単純なことだけれど、当たり前なことだろうけれど、まあいいかと思ってしまうりする軽い気持ちが問題なのだろうと。わたしは、やろうと思えばできることだとしたら、とりあえずやってみたらいいんじゃないかと考えます。手にごみがあるとして、確かに、その辺にポイッと投げ捨てるのは簡単なことですが、ゴミ箱を見つけて捨てることも簡単にできることだと思うのです。むしろ、ゴミ箱に捨てる方が、気分がいいのでお得かもしれないです。

一人ひとりがこうやって意識を変えていけば、少しずつかもしれないですが、よくなっていくと信じています。いまの時代では、変わっていかねばいけないのかもしれないかもしれません。さらに、わたしたちひとりひとりではなく、上のほうも変わらないといけないとも感じました。環境に関する法律を作ろうという「MAKE the RULEキャンペーン」に参加した時は衝撃的でした。自分の見えていなかった部分でこんな活動が実行されていたなんて!といった感じでした。ぜひとも成功することを期待しています。

こんな感じで、様々な体験をさせてもらったわけですが、メインとなった活動はエコライフDAYに関する活動でした。エコライフDAYを知り、地域で環境問題に取り組もうという姿勢がみられました。多くのコメントやCO₂削減に励む様子を知り、環境問題に関心を持っていることも伝わってきました。こんなふうに積極的な活動が大切なんだろうなと感じました。

最後に、環境問題は誰にとっても大切な問題です。当たり前なことだけれど、その当たり前を忘れてしまっている人もいるでしょう。人間が生活を豊かにするために、ないがしろにしてきた環境を、今度は、地球と共に生きていくため、その方法を考えていかなければならないと思います。

わたしが生きている間、地球がどんな姿になるのか、怖くもあり、また期待もしています。



第2部 「エコ体験広場&ものづくりコーナー」

1. 省エネ回転寿司

東京ガス(株)

今回は今年度当社で開発しました「省エネ回転寿司」をご紹介しました。初めてお会いする方々との集まり、環境の研修会などで自分の普段の生活での環境への取組みを紹介できるゲームです。普段の生活でどれくらい二酸化炭素を排出しているかを知ることができます。エコライフDAY同様皆さんの生活スタイルを見直すきっかけになったかと思います。



2. 捨てられる割りばしから「おもちゃ」を作ろう

割りばしおじさん(山下弘徳さん)

【わりばし鉄砲】

ラーメンを食べたスープの味のしみたわりばし、直ぐにゴミとして捨てられかねない、便利なわりばし四本、カッターと輪ゴム12本で手をかけることによって3連発の優れ物のわりばし鉄砲が出来上がり。すごい、面白い。今までゴミとしてか見られなかった使い古しのわりばしが生かされる素晴らしい瞬間。男の子、女の子問わず、学校の先生も目を輝かせながらのわりばし鉄砲の製作によって【物を大切に】【物は生きている】【物に命を吹き込む】ことの大切さを学ばさせられました。

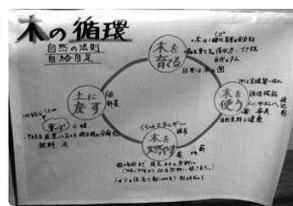
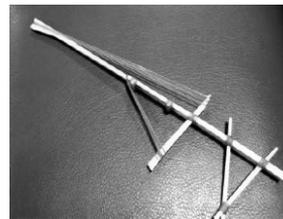


3. 木を知る、木を使う

～体験しよう、のこぎりで木を切り、釘を打つ～

木風堂

参加した子供たちのエネルギーには驚きました、体を使うことに対して眼の色が変わっています。一応、木の種類などを書いた掲示物を用意したのですがそれどころではないようです。木を切ること、釘を打つこと、もっともっと今度は屋外で体験してもらいたいと思います。



4. 紙すきコーナー

内海治子さん

牛乳パックから手すきハガキを作るお手伝いをして・・・子ども達もお母さん方も、いろいろ工夫をして世界でたった1枚の私が作ったハガキが出来ました。捨ててしまえばゴミですが、ちょっと手間をかけるとステキな作品になります。小さなことですが、物を大切にする心が育つと良いな～と思いました。まわりのものを見る時、ちょっと角度を変えると違って見えます。手間をはぶかず使い捨てを見直して地球に負荷の少ない共生生活をしたいです。



5. 「糸と針を使って、地球君人形とマイはしケース」

NPO法人川口市民環境会議

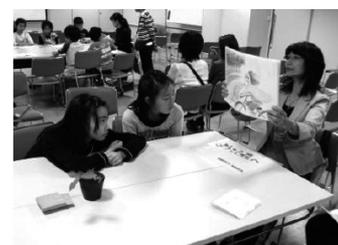
糸と針を使って、地球君人形とマイはしを縫ってつくりました。手馴れている子、初めて針を持つ子、どの子も一生懸命手を動かし静かな時間とみんなの心が一つになって、やさしいマスコットが次々と生まれてきました。きっとそれぞれのマスコットがみんなを見守ってくれていることでしょう。(古澤)



6. グリーンカーテンと紙芝居「ようこそ森へ」

川口市環境総務課 NPO法人川口市民環境会議

オリジナル環境紙芝居「ようこそ森へ」の原作を元に、自然の循環を分かりやすく、Yさんが編集したものを子ども達に読み聞かせ一緒に話し合い交換しました。子ども達の紙芝居の絵に対するコメントも聞くことができました。(山本・牧野)



しゃべり場は、紙芝居「ようこそ森へ」をメインとして行われ、終わりの部分でグリーンカーテンについて意見を交わすことができました。川口市では、昨年度から「川口グリーンカーテン大作戦」を実施しており、本年度は29箇所の公共施設においてグリーンカーテンを設置しました。参加した子どもたちから、自分たちの学校でも設置できるかとの質問があり、市の支援体制や学校でグリーンカーテンを設置することの効果について説明しました。市としても、より多くの学校に参加していただき、グリーンカーテンの輪がひろがることを願っています。

川口市環境総務課 中山

会議室にて「鼻のない子象物語～ハバティ～」など環境ビデオの上映も行いました。

閉会のことば

環境フォーラム担当 森 雄児

今回で5回目を迎えた環境フォーラム、岡村市長にも参加をしていただきながら無事終了をすることができました。ご協力をいただいた皆様方に改めて御礼を申し上げます。

子供たちのエコに対する取り組みが年々進歩し、真剣にかつ喜々と楽しみながら取り組む姿には、感動を覚えずにはられません。そして、自分の学校の中だけではなく、他校の取組を知ることによりお互いに刺激になればこの上なく嬉しく思います。更に今回は、いわゆる環境フォーラムOB、OG(環境フォーラムを経験された高校生や大学生)の参加もありました。今後も多くの方々とのつながりを大切にしながら努力してまいりたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

環境フォーラムのあゆみ

私達NPO法人川口市民環境会議はエコライフDAYを始めてから、市内・外で多くの出前授業をさせていただけるようになりました。エコライフDAYの子ども達のコメントや出前授業での子ども達の振り返りなどの発言を聞いていて、私達が感じるこの思いを、他校の多くの児童・生徒、先生方はじめ、地域の方々にも共有していただけたらと、発表の場として環境フォーラムを開催してきました。

2004年第1回から今回2008年第5回まで、毎年目を見張るものがありました。

1回目は、朝日西小学校の「牛乳パックの資源化の試み」の発表です。学校の牛乳パックを地域の資源回収に出しているけど、多くの学校が協力して学校の牛乳パックの回収を市と企業と協力して回収できませんか？という提案を頂きました。これをきっかけに、学校・回収業者との交渉を始めました。フォーラムに参加した3校の先生が集まって話し合ってください、現在では11校の学校がこの仕組みに参加されています。学校のトレットパーパーが古紙回収でまかなえている学校も出てきました。

2回目は、エコライフDAYの集計に協力してくれた珠算教室の小・中学生も発表してくれました。芝浦工大の学生はエコライフDAYの効果を発表、東洋大学大学院生はエコライフDAYの定着状況を発表、最後はそれぞれ卒業論文にまとめてくださいました。南中学で3年間給食係をした感想を発表したH君は、その発表がきっかけで、環境の学科がある大学の付属高校に進学し、今年から大東文化大学生になります。

3回目は、飯塚小学校に韓国から転校してきた小学生がクラスメイトと、韓国と日本の環境の違いを発表してくれました。毎回見学に来ていた朝日東小の児童は、児童会に呼びかけて学校で牛乳パック回収を始めることになったいきさつを発表してくれました。

4回目では、川口市が実施しているグリーンカーテン倶楽部の話し合いをしゃべり場で行い、翌年のグリーンカーテンフォーラム開催のきっかけの1つになりました。

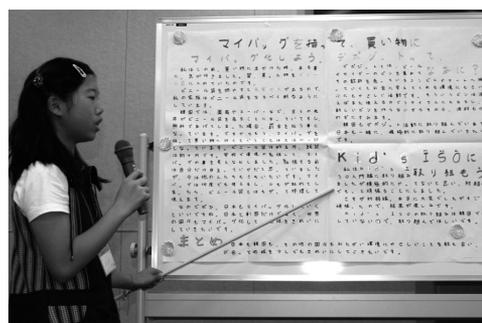
朝日西小学校の6年生は、出前授業でリサイクル商品の紹介を受けたことで、夏休みの宿題にリサイクル商品を発明し、それを発明展に応募して入賞したいいきさつを話してくれました。家が農家の小学生は、おばあさんが作る自慢の農作物をたくさん持って来て発表してくれました。自分の周りには環境を熱く語る人などは少ないのに、こんなに環境の事を考えて集まってくる人がいてびっくりしたという仲町中学3年生は、食物について発表。インターンシップで協力してくれた埼玉大学の6人の「活動の熱心さに打たれた」とのコメントが私達の励みになっています。

5回目の今年、ここで発表してくれた戸塚南小学校が、さいたま環境賞を受賞しました。

今年にはキュポラのフレンジアで開催します。発表、展示、見学者を募りますのでふるってご参加ください。
(牧野真知子)



朝日西小



マイバック



リフォーム



グリーンカーテン



NPO法人川口市民環境会議

環境出前授業メニュー

今までに実施した授業の例です。授業内容は、学校のご要望をお聞きしながら決めていきたいと思ひます。ぜひ、お声をかけてください。お待ちしております。



①宇宙船に乗ろう (2時間)

エネルギーや水・食べ物の循環を考えた後、何も対策をとらなかった場合の地球を想像したビデオを見ます。

最後に、ブラジルでの地球サミットでスピーチをした、12歳の女の子のメッセージを紹介します。

⑧カードでリサイクルを考えよう (2時間)

牛乳パックやペットボトルなどのリサイクルについて、カードを使って考えます。その後、それぞれのリサイクルについて、お話します。

②川口の環境と環境を守る人たち (2時間)

市内の森や川・ごみに関する写真を見ながらお話をします。その後、市内で環境を守る活動をしている方々の紹介、市内の森を舞台にしたオリジナル環境紙芝居「ようこそ森へ」の上演をします。

⑨電化製品を測定してみよう (2時間)

電化製品の消費電力・待機電力を測定し、自分たちに出来る上手な電化製品の使い方を考えてもらいます。省エネ電球の実演もします。

③地球温暖化と私たちの生活 (1~2時間)

地球温暖化問題についての説明の後、温暖化防止に関するワークショップをします。(省エネ製品購入ゲーム、もしも石油がなくなったら?など)。

⑩電気を作ってみよう (1時間)

手回し発電機を使って、自分たちで電気を作ってみます。電気を作ることの大変さ、そして大切さについて考えてみます。

④文房具を通して考えよう (1時間)

毎日使う文房具の大切さについて、外国のこどもたちの勉強風景を撮影した写真を通して考えます。最後に、エコ文房具の紹介をします。

⑪おひさまでお料理を作ろう (2時間)

太陽の熱で調理が出来る“ソーラークッカー”を使用して、お料理を作ってみます。また自然エネルギーについてのお話もします

⑤温暖化の原因を探せ!学校探検 (2時間)

学校の中を探検しながら、地球温暖化を「悪くするもの」「防ぐもの」を見つけてきます。最後に、学校の中で出来る環境を守る取組みについて考えます。

⑫パソコンでエコライフDAYの集計! (2時間)

エコライフDAYを実施して、減らせた二酸化炭素量を計算します。4年生以上

⑥私たちがごみを減らすには? (2時間)

実際にごみの分別を体験した後、川口のごみがどのように処理されているのか、ごみの減量につながるお買い物等についてお話します。

⑬チラシでおもちゃ・アクリルたわしを作ろう (1~2時間)

新聞のチラシを使ったおもちゃや、アクリル毛糸を使ったエコたわしを作り、環境を守ることの大切さを考えます。

⑦グループに分かれての授業 (2時間)

ごみ・エネルギー・食べ物・空気・水・川等のグループに分かれて、お話や、実験、体験活動などをします。内容によっては、市内他団体や企業と協働しながら実施します。

⑭レジ袋について考えよう (1~2時間)

2008年11月より始まっている「レジ袋無料配布中止」の取り組みに関連した授業。

レジ袋を断ることでどのくらい二酸化炭素やごみを減らすことができるのか、マイバックのお話や風呂敷の楽しい包み方なども。